

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの令和2年度業務実績に関する評価を受けての改善策

| 評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点) | 島根県立大学の改善策 |
|---|--|
| <p>○ 入学者の受け入れについて【全学】 ・コロナ禍の中、webやパンフレットを中心に大学の魅力・特色を伝える入試広報に取り組んだものの、全学の志願倍率は3.14倍と、前年度(6.60倍)から大きく低下し、前々年度(3.48倍)をやや下回る結果となった。</p> | <p>□ 魅力化推進本部においてホームページや大学案内、新聞広告、テレビCMといった既存媒体に加え、鼎談番組やキャンパス紹介番組を企画実施するとともに、プレスリリースサービスの導入によりパブリシティを強化(各マスコミ関係に取り上げてもらうように働きかけること。)し、入試制度や特色ある授業やゼミ活動、魅力的な課外活動について積極的に情報発信して志願者増につなげる。</p> |
| <p>○ FDの取り組みについて ・教員あるいは研究者の資質向上のための取組である「授業アンケートの回答率や教員フィードバック提出率」が全体的に低く、特に教員フィードバック提出率はキャンパス間で大きな差があり、率の低いキャンパス(浜田キャンパスが20%台、松江キャンパスが50%台)改善に向けた取組が必要である。</p> | <p>□ 浜田キャンパスにおいては、以下の対策を実施し、授業アンケート回答率、教員フィードバック提出率の向上に粘り強く取り組む。 ① アンケートのスマートフォン対応化を積極的に周知する。 ② アンケートページへのアクセス用QRコードを作成し、各講義室の出入口をはじめ学内各所に掲示する。 ③ アンケート回答期間開始時に各教室でのPR キャンペーンを展開する。 ④ 教授会で目標達成への協力依頼を行う。</p> |
| <p>○ 科研費の全学申請率について ・科学研究費助成事業への全学の申請率は、中期計画で掲げる目標値(全学60%以上)に対して、25.8%(浜田キャンパス:18.0%、出雲キャンパス:38.1%、松江キャンパス:17.4%)に留まった。</p> | <p>□ 科研費公募説明会を開催して科研費事業への応募を呼びかけるとともに、特に新規採用教員に対して「科研費申請書個別支援サービス」の利用を促し申請率の向上を図る。</p> |